

国際ロータリー第2560地区
ガバナーテーマ

「基本を学び、地域と共に」

高田ロータリー今年の
スローガン

「ロータリーを識り、
奉仕を实践し友情を深めよう」



人類に
奉仕する
ロータリー

2016～2017年度

国際ロータリー会長 ジョンF.ジャーム
2560地区ガバナー 田中 政春
高田ロータリー会長 本山 秀樹
幹事 中田 正

事務局：新潟県上越市西城町2-10-25 大島ビル201号
TEL (025) 526-3288 FAX (025) 526-3534
メールアドレス：takadarc@joetsu.ne.jp
例会場：デュオ・セレッソ TEL (025) 526-3111

クラブ広報・会報・雑誌委員
加藤 卓也 伴 長門 斉藤 光雄 佐藤 芳徳

第28回例会 ■ 2月3日(金)

No.28

会長挨拶 ● 本山 秀樹



ロータリーでは2月を「平和と紛争予防／紛争解決月間」として世界平和に貢献できるリーダーの育成を強調する月間としました。また、2月23日は1905年にロータリーの創始者ポール・ハリスが、友人3人と最初に会合をもった日でロータリー創立記念日です。「世界理解と平和の日」として祝われています。

さて、今日は節分です。節分とは、本来季節の変わり目のことを意味します。厳しい冬の季節を乗り越えた後の「立春」は1年の始まりとして特に尊ばれ、次第に節分といえ、立春の前日である2月3日になりました。また、節分には豆まきをします。節分の豆まきの正しいやり方とは言いますと、豆は炒った大豆を使う。豆まきは夜に行う。豆をまくのは一家の主人又は年男年女や厄年の人。「鬼は外！福は内！」と声をかけながら豆をまく。最後に1年の厄除けを願いながら数え年の分だけ豆を食べるとありました。今晚は、日本に受け継がれる年中行事として、家族みんなで仲良く豆まきをするのもどうでしょうか。

出席報告

出席率 100%

メイクアップ

高坂光一君・飯塚宏佳君（1/28 長野 RAC 招待行事）

委員会報告

出席・ニコニコBOX委員会

SAA——出席者と食事の数がピッタリ！となりました。

親睦委員会——2月のお誕生日各お祝い

社会奉仕委員会——2月10日 オークションの出席依頼と商品・サービスご提供の依頼

ロータリー財団委員会——寄付のお願い

幹事報告

配布物：週報No.27・米山奨学会確定申告用寄付金領収書・拔萃のつづり

回覧物：ガバナー月信2月号・スキーの集い in 糸魚川のご案内

報告：HP ユーザー名 (takadarc) ・パスワード (30815) のご案内

卓話

ベトナムのハンセン病村の子どもたち

公立大学法人新潟県立看護大学 准教授 渡辺 弘之様



ベトナムは近年目覚ましい経済成長を遂げており、ホーチミンなどの大都市部では高層ビルが建ち並ぶようになりました。

その一方、経済成長の恩恵を十分に受けることができない人びともいます。ハンセン病の患者さんはそうした人びとの代表と言えるでしょう。

ベトナムにおいてハンセン病の患者さんは長年差別や偏見の対象となっていました。そのため治療が終わっても社会復帰が進まず、多くの元患者がハンセン病村（帰る場所を喪失した元患者のための施設）などの施設で人生を送っています。

ハンセン病村では元患者同士の結婚により子どもたちが誕生してきました。子どもたちは親がハンセン病の元患者であるということだけで偏見を受けることがあります。そのため子どもたちは外

部社会との接触において何らかの傷つき体験を持ち、葛藤を抱きます。

その一方、彼らは自分が生まれ育ったハンセン病村に愛着を抱き、大事な故郷であると受け止めています。

子どもたちはハンセン病村と一般社会を行き来する架け橋であり、ベトナムの将来を担う若者です。そのため、子どもたちの悩みや葛藤に寄り添い、一般社会で彼らが生きていくことのできる支援が必要となります。そうした支援が実現できれば、経済成長の谷間に取り残された人びとへの視点を持つ若者へと成長してくれるでしょう。またそうした若者が増えることで、ベトナムは一回り成熟した社会へと変貌を遂げると確信しています。

ベトナムとの関わり



ホーチミン国家人文社会科学
大学東洋学部
(Faculty of Oriental Studies)
現在は日本学部へ昇格
Faculty of Japanese Studies



1997



1997